

中山義秀文学賞公開選考会

日時 令和6年10月13日(日) 14:00~

場所 新白信ビル イベントホール
(白河信用金庫 西支店 白河市立石96番地)

入場無料・要申込

下記事務局まで電話またはFAX、
窓口にてお申し込みください

候補作品

令和5年4月1日から令和6年3月31日までに刊行された書籍で、日本の歴史を素材とした文学作品（歴史・時代小説）の中から、最も優れた作品が選ばれます。受賞者には正賞および副賞賞金100万円ほかが贈呈されます。



あらやま とおる
荒山 徹

『風と雅の帝』

PHP 研究所

皇位継承が持明院統と大覚寺統で交互に行なわれていた鎌倉時代後期、量仁(光厳天皇)は持明院統の期待を背負って即位した。しかし、幕府が倒される際、六波羅探題軍とともに京都から逃れるも追い詰められ、目の前で六波羅探題ら四百名以上の武士が自刃。捕えられた光厳は、前帝・後醍醐によって即位そのものを否定されてしまう。その後、後醍醐と敵対した足利尊氏に擁立されることで、一度は“治天の君”の座につくも、尊氏の裏切りにより、南朝の囚われの身に――。彼を慕っていた鎌倉武士の死、宿敵・後醍醐との泥沼の闘い、吉野での幽閉の日々……南北朝の動乱の中、「天皇とは何か」を真摯に考え続け、現在の「象徴天皇」にも繋がる生き方を貫いた、“忘れられた天皇”を描く、著者渾身の歴史長編小説。



たけうち りょう
武内 涼

『厳島』

新潮社

「戦国三大奇襲」として知られる「厳島の戦い」。天文二十四(1555)年。年兵力わずかに四千の毛利元就軍が二万八千の兵を擁する陶晴賢軍を安芸国・厳島におびき寄せ、奇襲を成功させた名勝負の影には、知られざる壮絶なドラマがあった。吉川元春、小早川隆景ら有力武将を従え、敵どころか味方や血縁すら翻弄する冷酷無比な調略で勝利への道筋を固めていく毛利元就。一方、陶方の武将で岩国の領主・弘中隆兼は、元就の策に気付きながらも、主君・春賢の命に従い死地に身を投じていく――。謀略で勝利した元就と、義を貫いて敗れた隆兼。対照的な2人の男を通して人間の矜持を問う歴史巨編。



ながい さやこ
永井紗耶子

『きらん風月』

講談社

かつては寛政の改革を老中として推し進めた松平定信は、後に地元・白河藩主の座からも引退した。60歳を過ぎたいま、「風月翁」とも「楽翁」とも名乗って旅の途次にある。その定信が東海道は日坂宿の煙草屋で出会ったのが栗杖亭鬼卯。東海道の名士や文化人を伝える『東海道人物志』や尼子十勇士の物語『勇婦全傳繪本更科草紙』を著した文化人だ。片や規律正しい社会をめざした定信に対し、鬼卯は大坂と江戸の橋渡し役となる自由人であり続けようとした。鬼卯が店先で始めた昔語りは、やがて定信の半生をも照らし出し、大きな決意を促すのだった……。筆という卵が生み出すのは、武者か美女か、それとも鬼か。東海一の文化人と、松平定信の交流が心を揺さぶる、痛快歴史長編！

選考委員

いとう じゅん
伊東 潤氏
(作家)

うえだ ひでと
上田 秀人氏
(作家)

さわだ とうこ
澤田 瞳子氏
(作家)

ほそや まさみつ
細谷 正充氏
(文芸評論家)

主催：中山義秀顕彰会

共催：白河市 白河市教育委員会 中山義秀記念文学館

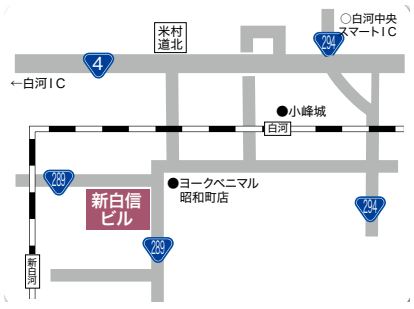
後援：福島民報社 福島民友新聞社 朝日新聞福島総局 毎日新聞福島支局 読売新聞東京本社福島支局

河北新報社(公財)立教志塾(公社)白河青年会議所 NPO法人しらかわ歴史のまちづくりフォーラム

申込先：中山義秀顕彰会事務局(中山義秀記念文学館内)

電話 / 0248-46-3614 FAX / 0248-46-3702

会場案内図



※窓口・FAXでお申込される際には、下記欄に必要事項をご記入ください。お電話での申込の際には、同事項をお伝えください。

	氏名	フリガナ	住所	電話番号
1				
2				
3				